

発掘ニュース

第 9 号

昭和 61 年 1 月 20 日

発行 財団法人 いわき市教育文化事業団

夏井廃寺 (平下大越字石田)

1月16日から夏井廃寺^{なついはいい}の発掘調査が約10日間の日程で始まり
ました。夏井廃寺は、奈良時代頃から平安時代頃のお寺の跡と
考えられています。付近一帯は水田にはっています。今でも古
い瓦^{かわら}や建物をたてた礎石^{そせき}が残っていて、水田の下に古代の建物
が埋まっていることがわかります。奈良の東大寺^{とうだいじ}の正倉院^{しょうそういん}には
貴重な宝物^{ほうぶつ}がたくさん残されていますが、夏井廃寺は、いわば
地下に眠る「いわきの正倉院」です。いわきが誇る、福島県第1
級の遺跡として塔跡は県史蹟に指定されています。今回の調査
は、その遺跡の範囲を知ることを目指しています。

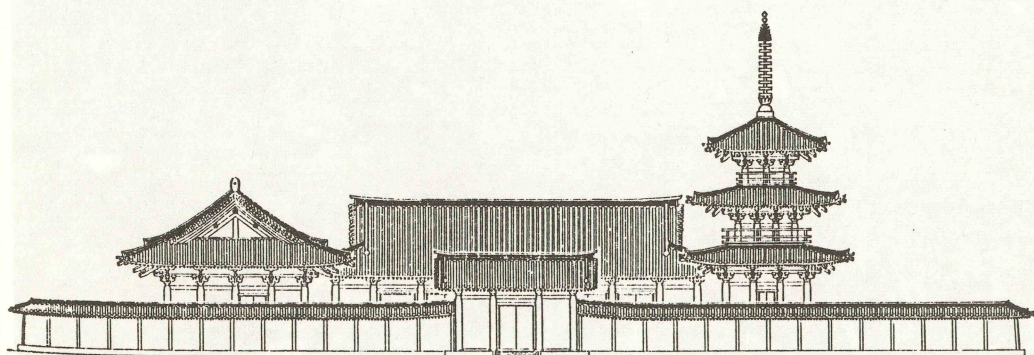


北方よりみた平下大越地区

夏井周辺の歴史

夏井川下流にあたるこの地帯は、以前から多くの遺跡が知られています。縄文時代中期・後期の下大越貝塚（松林、梅林地点）からは、当時の土器の他に土偶（土でつくられた人形）や釣針などが出ています。古墳時代には、現在国の史蹟となっている甲塚古墳（直径37mの円墳）が夏井川の右岸に築かれ、南には、天冠埴輪で有名な神谷作古墳群、壁に朱と白の三角文が描かれている中田装飾横穴など、有数の古墳密集地帯でした。これらの歴史を背景として、今回調査する夏井廃寺跡や根岸遺跡などが、律令時代以降につくられたのです。

夏井廃寺跡は、現在県の史蹟指定になっている塔跡を含めた一帯を言いますが、その規模や建物の配置などについては不明です。以前の調査では、礎石（柱を支える土台石）や、多くの瓦が出土しました。農作業中にも多くの礎石がみつかっています。根岸遺跡は、夏井廃寺跡の南の台地上にある遺跡です。掘込み坪地築といわれる基礎工事の上に礎石を置いて建てられた、5間4間の建物跡や瓦がみつか（り）、古代の磐城郡衙ではないかと考えられています。



たが じや はい い
多賀城廃寺（宮城県多賀城市）復原図

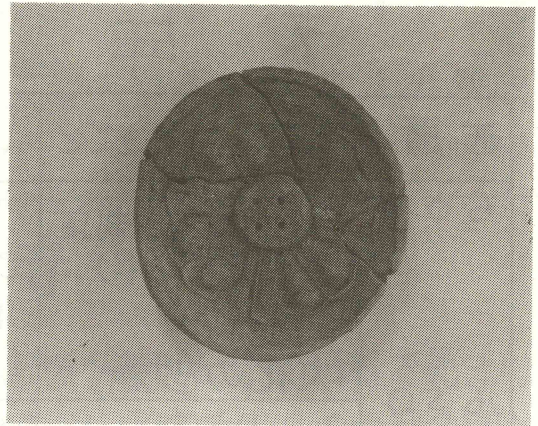
第一次調査の概要

今から20年前の昭和41年8月2日から6日間にわたって新産業都市指定に伴う発掘調査が行われています。

この時には、畑地2か所を掘り、瓦葺判別と礎石2個、柱穴20個がみつかりました。

瓦葺判別からは、軒丸瓦(図1)軒平瓦、丸瓦、平瓦(図3)など多量に出土しており、文字が記されているものもあります。

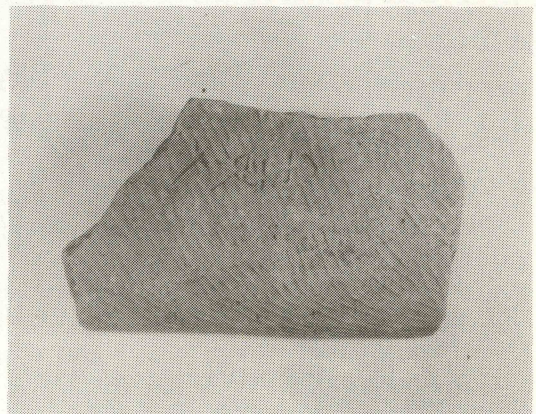
また、礎石のまわりには瓦片や石をつめて地盤沈下を防ぐ、根がためがなされており、当時の土木工事技術の高さがうかがえます。



軒丸瓦 (図1)



軒丸瓦 (図2)



平瓦 (図3)

用語解説

郡 衙^な: 現在の市役所のような
地方行政機関の施設

郡 寺^{のきまらから}: 郡衙に近接して存在
するお寺

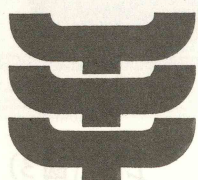
軒丸瓦・軒平瓦^{のきまらから}: 軒先に用いる装飾された瓦、丸瓦と平瓦を交互にならべて屋根を葺く。

年 表

西 暦	日 本 の で き ご と	い わ き の で き ご と	市 内 の 遺 跡
600	冠位12階の制定	この頃 いわきは ^{よたち} 常陸に属していた	夏井廃寺 彈正作横穴群 根岸遺跡(磐城郡信) 勿来郡遺跡(菊多郡信)
650	大化の改新	常陸国の北部を ^{たが} 多可と ^{いわき} 石城に分けた	
700	じんしん 壬申の乱	この頃 横穴(墓)が さかんにつくられた	
750	奈良に都を移す 多賀城ができる 国分寺建立の詔	この頃 石城は陸奥国に 編入された 石城国が置かれた 菊多郡が立郡された 石城国が廃止された	
800	京都に都を移す	磐城郡司 大部山際が 貧民に和を与えた	
		磐城臣雄公が橋や 建物を修築した	

としておきましょう

夏井 廃寺 発掘調査現地説明会



開 催 日：昭和60年 1月26日 (日)

時 間：午後1時から2時

場 所：現地 (いわき市平下大越字石田)

交 通：国鉄平塚からは、常磐線で西原行 ^{ほそだ}細田 陣